

令和2年度 年間論文賞選考結果について

年間論文賞審査委員会

委員長 横田 勇

論文審査委員会委員

横田 勇	静岡県立大学 名誉教授
根本 康雄	一般社団法人 廃棄物処理施設技術管理協会 顧問
杉山 吉男	一般社団法人 廃棄物処理施設技術管理協会 顧問
田所 正晴	元神奈川県環境科学センター、(株)アストラル 取締役
河邊 安男	一般財団法人 日本環境衛生センター 技術顧問

令和2年度年間論文審査委員会は、2021(令和3)年5月10日(月)10時~12時、一般財団法人日本環境衛生センター東京事務所(東京都港区東新橋2丁目)にて、委員全員出席のもとに開催しました。審査対象論文等は、季刊「環境技術会誌」179号から182号から会員等が執筆した6編の論文等について、慎重に審査し下記の4編の論文を優秀論文としました。「支部会誌」からの審査対象論文はありませんでした。受賞される方には、心からお祝いを述べるとともに、益々のご活躍を期待します。

記

受賞論文

1. 最優秀賞：萩原 正樹 ふじみ衛生組合 事務局長

特集「廃棄物処理のイノベーション」、廃棄物エネルギーを防災拠点へ～地域に新たな価値を創出するふじみ衛生組合の取組～(季刊「環境技術会誌」182号掲載)

【選考理由】

本稿はふじみ衛生組合が取組んだ、防災拠点としての廃棄物エネルギー利活用の事例紹介であり、具体的かつ詳細な実績を示している。廃棄物エネルギーを防災拠点として供給できることは大きなメリットである。他事業所に非常に参考になる内容であり、時宜に適した貴重であり優秀な報文である。

2. 優秀賞：小林 英正 日立造船株式会社 水処理設計部長

特集「廃棄物処理のイノベーション」、し尿汚泥処理施設に関する最新技術の動向(季刊「環境技術会誌」182号掲載)

【選考理由】

本稿はし尿処理や浄化槽に起因する余剰汚泥等の資源化を述べた技術論文である。この汚泥にアルカリを加え加水分解し、リン酸態リンを回収する技術は、回収したリンを肥料として再利用ができ、汚泥処理費の削減にもなる。今後の余剰汚泥の処理技術として普及が期待できる貴重な報文である。

3. 奨励賞：竹田 航哉 一般社団法人日本環境衛生施設工業会 技術委員

川崎重工業株式会社

特集「廃棄物処理のイノベーション」、廃棄物処理分野におけるIoT/AI技術の活用（季刊「環境技術会誌」179号掲載）

【選考理由】

本稿は、焼却施設における将来運転管理人員の確保困難が予測されることから、安全な廃棄物処理システムの維持に関するIoT/AI技術の活用事例及び技術を述べた報文である。IoT/AI技術を導入した遠隔監視や自動焼却制御システム等は企業のノウハウがあり余り公にされないなか、貴重な報文である。

4. 特別賞：羽染 久 一般社団法人廃棄物処理施設技術管理協会 上席調査役

特集「廃棄物処理のイノベーション」、廃棄物処理施設からのエネルギー利用について一地域循環共生圏の構築に向けて一（季刊「環境技術会誌」179号掲載）

【選考理由】

本稿は「地域循環共生圏」の推進を図るために、廃棄物エネルギー利活用の現状、国の支援施策、今後の方向性について述べた報文である。廃棄物エネルギーの利活用は昔からいわれ、取り組みが行われているが、数量的にデータを精査し、具体的かつ簡潔にまとめており、非常に有用である。

JAEMメールマガジン 第148（3月）号

目次より

□ 巻頭コラム

- ・「タクソノミーとトランジション」森本英香
- ・「お染風、日本での騒動あれこれ」溝入茂

□ 廃棄物処理法制定50周年記念（「清掃法」66周年+「汚物掃除法」120周年）特別企画

- ・「廃棄物処理法と私」仁井 正夫

□ BUNさんと泉先生の廃棄物処理法逐条解説（148）

「補遺2. 第二条の三（非常災害により生じた廃棄物の処理の原則）」

□ 計装のコラム（7）「新製品トラブルについて」計装屋

□ 技術者が見たあの頃（と今）（111）

「廃掃法雑感－廃棄物管理実務と国際協力業務の経験から－」四阿秀雄

□ 徒然・メルマガ（38）「続日本100名城、笠間城と村上城を訪ねる」八木美雄

バックナンバーは技術管理協会ホームページに掲載中です【会員特典】

https://jaem.or.jp/?page_id=3507

会員のページ



メールマガジン
バックナンバー



JAEMメールマガジンは、本機関誌「環境技術会誌」の発行月4月、7月、10月、1月の狭間を埋める情報媒体として、月1回の割で会員・非会員を問わず配信しております。

ご希望のかたは、メールアドレスを当事務局までお知らせください

gikankyo-info01@jaem.or.jp